

平成28年度第1回審議会の次期計画（案）に対するご意見と対応

| | ご意見の概要 | 該当箇所 【ページ数・行目】 | 次期計画（案）での対応 |
|---|--|-------------------|---|
| 1 | 費用対効果は、短期的なコストではなく、将来にわたるトータルコストを検討する必要があるので、考え方を整理してはどうか。（小川委員） | 25ページ・ 囲み枠内 | <p>ワンポイントとして、以下の文章を追記する。</p> <p>「ワンポイント：費用対効果の考え方 かけた費用に対して、どれくらい効果があるかを比較することをいい、本計画では実施する事業の選定を行う際、イニシャルコスト（初期費用）とランニングコスト（維持費用）を含めたトータルコスト（事業経費）に対し、計画の数値目標の達成や3用地2清掃工場運用体制の確立などへ、どの程度寄与するかを判断材料としています。（例えば、資源回収に要するトンあたり経費など。）</p> <p>常に、排出抑制、再生利用、適正処理、環境負荷、その他の市民サービス等の視点を加味して施策の効果や費用効率性の評価を行い、地域の実情を踏まえつつ、最適な政策選択を行うことが大切です。」</p> |
| 2 | プラスチック製容器包装の再資源化に関連して、廃棄されたプラスチックごみの海洋汚染が問題となっており、世界を挙げて解決すべき課題であることを計画書に取り入れてはどうか。（伊藤（久）委員） | 26ページ・ 囲み枠内 | <p>ワンポイントとして、以下の文章を追記する。</p> <p>「ワンポイント：海のマイクロプラスチック汚染について 海を漂う廃棄物の中でも、プラスチックは自然に分解して無くなることなく、微細なプラスチックは海洋生物が餌と間違えて誤飲することがあり、生態系への影響が懸念されています。国境を越えて移動するプラスチック廃棄物の削減は、世界を挙げて解決すべき課題となっています。」</p> |

| | ご意見の概要 | 該当箇所 【ページ数・行目】 | 次期計画（案）での対応 |
|---|---|---------------------------|--|
| 3 | <p>現行計画の計画目標値を達成できなかった理由や課題を整理し、次期計画にどう繋げていくのかが分かるような文章を付け加えると、次期計画で実施する施策との関連性が明確になり、理解が深まるのではないかと。（伊藤（康）委員）</p> | <p>27ページ・ 14～26行目</p> | <p>以下の文章を追記する。 「前計画では、前述のとおり「プラスチック製包装容器の再資源化」、「剪定枝等の再資源化」、「生ごみ再資源化の拡大」が未実施であったため、「焼却処理量」で目標値を達成できませんでした。これら未実施3事業は、現時点で実施が困難である事業や、費用対効果の面で慎重に検討すべき事業があることから、次期計画では施策展開の方法を工夫し、実効性の高い計画事業を展開していく必要があります。特に、生ごみについては、ごみ組成分析によると可燃ごみ排出量の多くを占める状況にあることから、次期計画では、発生抑制や再資源化に重点的に取り組む必要があります。 また、未実施3事業に加えて、東日本大震災の影響による民間エコセメント施設の稼働停止により焼却灰の再資源化量が減少したことから、「再生利用率」と「最終処分量」で目標値を達成できませんでした。次期計画では、分別を徹底しつつ、新たな再資源化品目を検討するなど、廃棄物から資源物への転換を図るとともに、エコセメント化以外の方法で焼却灰の再資源化量を増やしていく必要があります。」</p> |
| 4 | <p>人口50万人以上の自治体の中で、5年連続で再生利用率が全国第1位であることを誇りとしつつ、今後は2R、とりわけリデュースに力を入れて取り組んでいくべきであり、今後作成する「スローガン」に反映してはどうか。（倉阪委員）</p> | <p>31ページ</p> | <p>（ご意見を参考にしながら、今後スローガンを作成する。）</p> |
| 5 | <p>基本理念にある「低炭素社会」と「循環型社会」が構築されたかどうか、判断するための指標を設けるべきである。（小川委員）</p> | <p>39ページ・ 3～5行目</p> | <p>以下の文章を追記するとともに、目標達成のイメージを図示する。 「循環型社会の構築を測る数値目標として、3Rの効果が直接的に現れる「総排出量」「焼却処理量」「再生利用率」「最終処分量」が該当し、低炭素社会の構築を測る数値目標として「温室効果ガス排出量」が該当します。」</p> |

| | ご意見の概要 | 該当箇所 【ページ数・行目】 | 次期計画（案）での対応 |
|---|---|---|---|
| 6 | 人口が減るにつれて、全体的なごみ量は減少していくと思うので、市民1人ひとりが努力できるような数値目標を設定してはどうか。（三瓶委員） | 45ページ | 次期計画の目標年度である、平成43年度における市民1人1日あたりのごみ排出量の目標値や、ごみ減量に向けた市民の努力目標を記載しており、今後、印象的なスローガン等により、数値目標達成に向け市民1人ひとりが努力していただけるように促していきたい。 |
| 7 | 基本方針1「一人ひとりがごみを出さないライフスタイル・ビジネススタイルの確立による2R（リデュース・リユース）を目指します。」とあるので、2Rを推進するための施策を充実させるべきである。（河合委員） | 51ページ・ 8～10行目 11～15行目 52ページ・ 20～24行目 54ページ・ 10～12行目 22～26行目 27～29行目 | 基本方針1の個別事業として、2Rを推進するための具体的な施策を追記する。 事業2 (新) (2) ⑦ごみ減量コンシェルジュの設置 (新) (2) ⑧可燃ごみ減量効果の「見える化」の実施 事業3 (新) (2) ⑥リユース促進に寄与するイベントの開催及び民間団体の活動支援 事業5 (新) (1) ③生ごみ減量処理機等の普及啓発活動の実施 (新) (1) ⑦生ごみの再資源化に取り組む市民に対するインセンティブの付与 (新) (1) ⑧フードドライブの実施 |
| 8 | ガス化溶融方式等のごみ処理方式について、まだごみ処理技術の検証がなされていないのではないかと。（福永委員） | 83ページ・ 12～14行目 | 次期計画では、現行計画における個別事業「エネルギー利用の強化に向けたごみ処理システムの検討」を拡充させて、ガス化溶融方式を含む技術の動向を把握し、最適なごみ処理技術の検討を行う。 事業24 (拡) (3) ごみ処理技術の検討 |
| 9 | 計画期間における、各年度の人口と目標値（総排出量、焼却処理量、再生利用率、最終処分量、温室効果ガス排出量）を掲載してはどうか。（三瓶委員） | 最終ページ | 参考資料2として、各年度の推計人口と計画目標値を掲載する。 |